

麻しん（はしか）の発生について

千葉市在住の20代の男性が麻しんと診断され、市内医療機関から千葉市保健所に麻しんの発生届の提出がありました。

千葉市保健所で調査をした結果、他の人に麻しんを感染させてしまう可能性がある期間（感染可能期間）に、不特定多数の方が利用する公共交通機関を利用していたことが判明しましたので、お知らせします。

1 患者の概要

（1）年代、性別

20歳代、男性

（2）症状

発熱、発疹、コプリック斑（頬の内側の白い斑点）、咽頭痛

（3）ワクチン接種歴

有 2回

2 経過

令和8年2月 3日（火） 発熱（38.5℃）、咽頭痛出現（発症）

8日（日） 解熱、発しん症状出現

9日（月） 市内医療機関を受診

検体（血液、尿、咽頭拭い）採取

10日（火） 千葉市環境保健研究所の遺伝子検査において麻しん陽性と判明。

※現在は自宅療養中で快方に向かっている。

3 感染可能期間（発症日前日の2月2日以降）に患者が利用した、不特定多数の方が利用する公共交通機関

次の公共交通機関を同じ時間帯で利用された方で、利用後21日以内（特に10日前後）に発熱や発しん等、麻しんを疑うような症状が現れた場合は、事前に最寄りの保健所に電話連絡し、指示に従い医療機関を受診してください。

利用日	時間帯	利用した公共交通機関
2月2日（月）	10時台 ～11時台	千葉都市モノレール スポーツセンター駅 ～ 千葉みなと駅 JR京葉線 千葉みなと駅 ～ 舞浜駅
	19時台 ～20時台	JR京葉線 舞浜駅 ～ 千葉みなと駅 千葉都市モノレール 千葉みなと駅 ～ スポーツセンター駅

※利用先へのお問い合わせはご遠慮ください。現時点において、麻しん患者が利用した公共交通機関を利用しても心配はありません。

※医療機関を受診する際は、周囲の方への感染を広げないよう、マスクを着用し、公共交通機関等の利用を避けてください。

※接触者が特定できる施設（勤務先、医療機関等）については、保健所が接触者の健康観察を実施しています。

4 麻しん発生届出件数（件）

年（1－12月）	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
千葉市 (令和8年2月10日現在)	0	1	0	3	1
千葉県	0	1	1	22	4
全国	6	28	45	265	14

※千葉県の令和8年件数は、2月10日時点（千葉市含む）

※全国の令和8年件数は、国の感染症発生動向調査第5週（1月26日～2月1日）までの速報値

<参考>

1 千葉市における麻しん対策について

千葉市では、過去に麻しんワクチン（混合ワクチンを含む）を接種していない方や、麻しん抗体検査の結果、抗体価が陰性の方などに予防接種の費用を助成しています。

（1）予防接種について

ア 対象者

千葉市に住民登録があり、以下①～③のいずれかに該当する方

①昭和47年10月1日以前の生まれで、麻しん抗体検査の結果、抗体価が低い方

②昭和47年10月2日以降の生まれで、過去に麻しんワクチン（混合ワクチンを含む）を1回も接種したことがない方

③造血細胞移植後に麻しんワクチン（混合ワクチンを含む）を接種していない方

イ ワクチンの種類 麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）

ウ 自己負担額 無料

エ 助成回数 1人1回まで

※過去に千葉市の助成事業を利用して麻しん風しん混合ワクチンを接種されたことのある方は対象になりません。

（2）抗体検査について

希望される場合は直接近隣の医療機関へお問い合わせください。なお、抗体検査に係る費用は全額自己負担となります。

市内の麻しん風しん混合ワクチン予防接種協力医療機関や、申し込み方法等の詳細については千葉市ホームページをご確認ください。

○麻しん風しん混合ワクチン任意予防接種費用助成のご案内

【URL】https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/seisaku/fushin_mashin_optional_r6.html



2 麻しんの症状

感染すると通常10～12日後に38℃前後の発熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜充血などが約2～4日間続き、解熱後、再び39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われており、死亡する割合は、先進国であっても1,000人に1人と言われています。

3 感染経路

麻しんは麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症として知られています。麻しんウイルスの主たる感染経路は空気感染で、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症すると言われています。

また、発症した人が周囲に感染させる期間（感染可能期間）は、症状が出現する1日前から解熱後3日間までと言われています。

4 感染予防策

麻しんは予防接種が有効であり、2回定期接種の機会があります。

- ・第1期 1歳以上2歳未満
- ・第2期 5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学前の1年間

また、麻しんを発症した場合、学校や職場等で感染を拡大させるおそれがあるため、母子手帳などで予防接種歴を確認し、定期予防接種を2回受けていない方や予防接種歴が不明な方は、かかりつけ医などに相談の上、接種を検討する必要があります。

なお、麻しんを疑う症状が現れた場合は、感染拡大を防止するため、事前に医療機関に電話連絡でその旨を伝え、医療機関の指示に従い受診してください。

また、受診時は、周囲への感染を防ぐため、公共交通機関等の利用を避ける必要があります。

5 潜伏期間

約10日～12日間（21日間程度の場合もあります。）

6 治療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

7 海外での感染症情報について

海外では、渡航先によっては様々な感染症が流行している場合があります。海外渡航の予定がある方は、厚生労働省検疫所のホームページ等で渡航先の感染症情報を確認するとともに、予防接種実施の検討等、適切な感染予防を心がける必要があります。

○厚生労働省検疫所ホームページ

【URL】 <https://www.forth.go.jp/index.html>

